



2019年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年10月9日

上場会社名 ダイユー・リックホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3546 URL http://www.daiyulic-hd.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅倉 俊一  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営戦略室長 (氏名) 三瓶 善明 (TEL) 024-563-6818  
 四半期報告書提出予定日 2018年10月15日 配当支払開始予定日 2018年11月5日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年2月期第2四半期の連結業績(2018年3月1日~2018年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年2月期第2四半期	40,527	1.8	1,415	3.5	1,574	6.6	982	△1.3
2018年2月期第2四半期	39,787	—	1,367	—	1,475	—	995	—

(注) 包括利益 2019年2月期第2四半期 1,002百万円(△2.0%) 2018年2月期第2四半期 1,023百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年2月期第2四半期	66.54	66.22
2018年2月期第2四半期	67.49	67.17

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年2月期第2四半期	56,596	14,090	23.0
2018年2月期	54,098	13,224	22.5

(参考) 自己資本 2019年2月期第2四半期 13,035百万円 2018年2月期 12,187百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年2月期	—	13.00	—	13.00	26.00
2019年2月期	—	13.00	—	—	—
2019年2月期(予想)	—	—	—	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年2月期の連結業績予想(2018年3月1日~2019年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	80,500	2.2	1,900	11.6	2,100	8.4	1,250	20.6	84.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年2月期2Q	15,174,203株	2018年2月期	15,174,203株
② 期末自己株式数	2019年2月期2Q	377,889株	2018年2月期	430,093株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2019年2月期2Q	14,760,835株	2018年2月期2Q	14,746,238株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(会計方針の変更)	11
(会計上の見積りの変更)	11
(セグメント情報等)	12
4. その他	14
継続企業の前提に関する重要事象等	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2018年3月1日～2018年8月31日)におけるわが国経済は、好調な企業収益を背景に雇用環境も好調に推移するとともに、IoTを中心とした設備投資についても改善傾向にあり、緩やかな回復基調の景況感が見られました。一方で、人手不足による人件費の上昇懸念や、極東アジア地域における地政学的リスクが依然として潜在しているほか、米国の保護主義への傾倒に起因する貿易摩擦リスクの高まりから、資本市場への影響が懸念されるなど、先行き不透明感を払拭できない状況であります。

流通小売業におきましては、オーバーストア状態にあり、出店立地の確保が困難な状況の中で出店競争が激化しており、さらに地方においては少子高齢化、人口減少といった社会構造の変化が顕著であり、顧客の獲得競争もより一層厳しい経営環境となっております。個人消費につきましては、雇用環境が好転する反面、非正規雇用形態が多く、将来の見通しがたない不安から家計の生活防衛意識が高まっていること、さらに、依然として節約志向が根強く、本格的な消費回復には至っていない状況であります。

このような状況下、当社グループは、さらなる成長戦略実現に向け当第2四半期連結累計期間におきましても以下のとおり新規出店を行いました。

ダイユーエイト	ホームセンターダイユーエイトさくら氏家店	(開店3月 栃木県)
アミーゴ	ペットワールドアミーゴ金沢おこばた店	(開店4月 石川県)
	ペットワールドアミーゴ長野篠ノ井店	(開店7月 長野県)
ジョーカー	JOKER伊勢丹浦和店	(開店3月 埼玉県)

なお、8月に家具専門店を1店舗閉鎖しております。これにより当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、194店舗となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループ(当社及び連結子会社)の連結売上高は、405億2千7百万円(前年同期比1.8%増)、連結営業利益は14億1千5百万円(同3.5%増)、連結経常利益は15億7千4百万円(同6.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は9億8千2百万円(同1.3%減)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

[ダイユーエイト]

ホームセンター事業は、既存店ベースで、来店客数が前年同期比で0.7%減少、客単価についても前年同期比で0.5%減少したことにより、既存店売上高は0.3%の減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、春先から平均気温が前年を上回った影響により農業薬品、農業肥料、用土を中心として農業資材、園芸、植物等のホームニーズ商品の売上高が前年同期比で伸張いたしました。また、3月に新規オープンしました「ダイユーエイトさくら氏家店」のオープン協賛セールも好調に推移したこと、さらに今期は営業開始時間を従来の9時30分から9時に変更したことが売上高の底上げに寄与しております。ゴールデンウィーク以降は天候不順が続き、レジャー関連商品、エクステリア、家庭用品を中心に売上高が前年を割込んだほか、ガーデニング、花特集等の企画についても計画数値を下回る結果となりました。6月に入って気温の上昇とともに冷房関連商品、夏寝具、日よけ商品等の夏物季節商品の売れゆきが好調でしたが、夏場は連日の猛暑日の影響により前年と比較して来店客数が減少したことにより、売上高に大きく影響したことにより既存店ベースにおいて前年を割込む結果となりました。

今期は商品政策として、グループシナジー効果発揮の重点取組みとして、ホームセンター商材の仕入取引先並びに商品のグループ内での統一を進めており、グループ内での商品調達効率性を高め荒利率の改善に取り組んでおります。またホールディングス体制移行後より売上構成比率を高めている自社開発商品「DLブランド」は、取扱商品が5,000品目を超え順調に推移し、荒利率改善のほか、品質と機能性を高め、お客様への一層の認知度の浸透を図っております。

販売面につきましては、他業態との差別化をすべくテーマ性のある売場構築に取り組んでいるほか、従来から進めている「ホームセンターらしさ」を実現するため、ホームニーズ商品を強化するとともに、農家需要へ対応すべく農業資材部門の品揃えを充実させ、さらに「まとめ買い」のニーズに対しても一層の強化を第2四半期を通じて取り組んで参りました。

これらの結果、ダイユーエイトにおけるセグメント売上高は210億1千5百万円(前年同期比2.9%増)、セグメント利益(営業利益)は7億2千3百万円(前年同期比0.0%減)となりました。

[リックコーポレーション]

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で2.0%増加しましたが、客数が前年同期比で4.8%減少したことから、既存店売上高は2.9%減少いたしました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向は、猛暑により熱中症対策品・冷感小物品・季節衣料品・季節家電品等の売上高が伸張いたしました。しかし、害虫の発生が少なく、雑草の成長も遅かったことで殺虫剤、園芸薬品、農業肥料、用土を中心として日用品・園芸・植物等の売上高が低迷いたしました。その他、当社店舗の近隣ヘドラッグストアやディスカウントストアが outlet しており異業種との販売競争が加速していることも売上高低迷の要因となっております。

上半期は天候不順が続いておりますが、7月に発生した西日本豪雨災害が発生したことにより、長靴・作業手袋・安全保護用品・高圧洗浄機・解体用工具・作業シート・土のう袋等の災害復興品をいち早く販売することで地域のお客様の生活インフラとしての役割を担っています。さらなる地域密着型ホームセンターとして進化するため、テーマ性のある売場づくりによる需要創造、様々なお客様の要望にお応えできるように社員教育や各種研修、従業員の資格取得を推進することで人材の育成を図っております。

販売費及び一般管理費につきましては、作業に応じた人員の配置、グループ統一システム導入による効率化、間接部門の経費削減を行うことで必要コストの圧縮を行っております。

これらの結果、リックコーポレーションにおけるセグメント売上高は79億2百万円（前年同期比3.3%減）、セグメント利益(営業利益)は2億6千7百万円（前年同期比13.9%減）となりました。

[アミーゴ]

ペットショップアミーゴは、既存店ベースで来店客数が前年同期比で0.4%増加、客単価が前年同期比で2.2%増加したことから、既存店売上高は2.6%増加となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、期首より例年と比較して気温が上昇した影響により4月からクール用品が好調で、特に7月以降、夏物ウェア、飲料、おやつの販売が好調であったこと、また、既存店を活性化することを目的として店舗改装、商品部門の棚替えを実施し、棚割を一新したことによりペットフード、用品等の物販部門については、専門店ならではのプレミアムフード、ペットウェアの販売が堅調に推移いたしました。また、犬、猫生体の販売頭数が前年同期比で6.1%、売上高が前年同期比で4.9%それぞれ増加しております。アクアリウム部門については、水草やメダカ等の強化カテゴリーに集中した取組みが、新規顧客、コアユーザーの獲得に寄与いたしました。西日本を中心に大規模災害による生体の入荷遅れ・買い控えなどがあり、売上高が前年同期比で減少しております。サービス部門については、ドッグトレーナーが野外教室などのイベントで精力的に活動し、しつけ教室部門が前年同期比36.0%増加いたしました。トリミング部門は需要が高まる一方で、トリマー人材確保の進捗が計画を下回っており、同部門の売上高は前年同期比で減少しております。

これらの結果、アミーゴにおけるセグメント売上高は83億8千3百万円（前年同期比6.2%増）、セグメント利益(営業利益)は2億8千1百万円（前年同期比51.0%増）となりました。

[その他]

セグメント売上高は62億7千8百万円（前年同期比4.0%減）、セグメント利益(営業利益)は1億6千1百万円（前年同期比59.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の財政状態としましては、総資産が565億9千6百万円、負債が425億6百万円、純資産は140億9千万円となりました。以上の結果、自己資本比率は23.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2018年4月12日付「平成30年2月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において公表しました業績予想値に変更ありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### (会計方針の変更)

第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社リックコーポレーションにおける通常の販売目的で保有する物流センターのたな卸資産について、従来、先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

これは、グループ内での商品統合・海外開発商品の拡大を推進することを目的として、株式会社リックコーポレーションの商品管理システムのグループ各社との統合及び主要子会社の商品部を廃止し、商品部機能をダイユー・リックホールディングスの商品本部に集約したことを契機に、事業セグメント別の事業実態及び期間損益の比較可能性を向上させ、より精緻な事業管理の実践と、より適切な経営成績の表示をするために行ったものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及修正は行っておりません。

#### (会計上の見積りの変更)

第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社リックコーポレーションにおける通常の販売目的で保有する店舗のたな卸資産について、従来、売価還元法による低価法を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

これは、グループ内での商品統合・海外開発商品の拡大を推進することを目的として、株式会社リックコーポレーションの商品管理システムのグループ各社との統合及び主要子会社の商品部を廃止し、商品部機能をダイユー・リックホールディングスの商品本部に集約したことを契機に、事業セグメント別の事業実態及び期間損益の比較可能性を向上させ、より精緻な事業管理の実践と、より適切な経営成績の表示をするために行ったものであります。

これにより、従来の方法と比べて、当第2四半期連結累計期間の売上総利益、営業総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益が104,246千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,780,950	6,245,705
売掛金	576,959	865,807
たな卸資産	14,183,745	15,066,710
その他	2,117,792	1,820,837
貸倒引当金	△2,952	△3,209
流動資産合計	21,656,495	23,995,851
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	32,300,917	33,119,106
減価償却累計額	△18,631,463	△18,933,723
建物及び構築物（純額）	13,669,453	14,185,382
土地	4,292,902	4,302,453
リース資産	2,719,752	2,886,003
減価償却累計額	△1,192,797	△1,355,493
リース資産（純額）	1,526,954	1,530,510
その他	3,149,401	2,776,268
減価償却累計額	△1,646,413	△1,723,909
その他（純額）	1,502,988	1,052,358
有形固定資産合計	20,992,299	21,070,704
無形固定資産		
のれん	2,272,403	2,210,987
その他	1,877,756	1,951,808
無形固定資産合計	4,150,159	4,162,795
投資その他の資産		
敷金及び保証金	5,166,200	5,114,515
その他	2,192,151	2,311,493
貸倒引当金	△58,374	△58,361
投資その他の資産合計	7,299,977	7,367,647
固定資産合計	32,442,436	32,601,147
資産合計	54,098,931	56,596,999

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,112,898	5,350,709
電子記録債務	6,054,086	6,091,342
短期借入金	2,050,000	2,850,000
1年内返済予定の長期借入金	4,262,257	4,432,179
リース債務	547,071	561,312
未払法人税等	691,594	544,709
ポイント引当金	302,874	304,487
転貸損失引当金	32,159	12,653
その他	4,554,126	3,424,736
流動負債合計	22,607,068	23,572,130
固定負債		
長期借入金	13,691,348	14,422,924
リース債務	1,295,549	1,316,471
役員退職慰労引当金	78,220	81,495
転貸損失引当金	8,100	4,500
退職給付に係る負債	479,044	489,956
資産除去債務	974,644	971,292
その他	1,740,192	1,647,655
固定負債合計	18,267,098	18,934,295
負債合計	40,874,166	42,506,425
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金	4,375,368	4,416,662
利益剰余金	5,902,418	6,692,964
自己株式	△167,386	△147,286
株主資本合計	12,110,400	12,962,340
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	112,954	100,250
退職給付に係る調整累計額	△35,745	△27,387
その他の包括利益累計額合計	77,209	72,862
新株予約権	41,614	41,614
非支配株主持分	995,541	1,013,755
純資産合計	13,224,765	14,090,573
負債純資産合計	54,098,931	56,596,999

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年3月1日 至2017年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年8月31日)
売上高	39,787,275	40,527,332
売上原価	26,679,113	27,046,738
売上総利益	13,108,161	13,480,594
営業収入	1,364,442	1,369,312
営業総利益	14,472,604	14,849,906
販売費及び一般管理費	13,104,746	13,433,936
営業利益	1,367,857	1,415,970
営業外収益		
受取利息	16,608	15,778
受取配当金	4,917	3,962
受取手数料	178,603	178,099
その他	65,949	75,678
営業外収益合計	266,079	273,519
営業外費用		
支払利息	101,065	78,753
借入手数料	40,343	18,794
その他	16,706	17,739
営業外費用合計	158,114	115,287
経常利益	1,475,822	1,574,202
特別利益		
固定資産売却益	6,492	34,934
受取損害賠償金	46,015	-
受取補償金	78,594	-
その他	2,037	720
特別利益合計	133,139	35,654
特別損失		
固定資産売却損	-	14,930
固定資産除却損	8,229	1,188
有価証券評価損	-	999
減損損失	5,509	3,770
その他	4,437	-
特別損失合計	18,176	20,888
税金等調整前四半期純利益	1,590,785	1,588,968
法人税、住民税及び事業税	586,816	560,408
法人税等調整額	△15,980	22,063
法人税等合計	570,835	582,472
四半期純利益	1,019,949	1,006,496
非支配株主に帰属する四半期純利益	24,604	24,276
親会社株主に帰属する四半期純利益	995,345	982,219

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年3月1日 至2017年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年8月31日)
四半期純利益	1,019,949	1,006,496
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△304	△12,641
退職給付に係る調整額	4,007	8,357
その他の包括利益合計	3,702	△4,283
四半期包括利益	1,023,652	1,002,212
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	999,036	977,872
非支配株主に係る四半期包括利益	24,615	24,339

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年3月1日 至2017年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,590,785	1,588,968
減価償却費	824,707	886,182
減損損失	5,509	3,770
のれん償却額	61,416	61,416
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△477	244
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	16,990	23,574
受取利息及び受取配当金	△21,526	△19,741
支払利息	101,065	78,753
借入手数料	40,343	18,794
受取損害賠償金	△46,015	-
受取補償金	△78,594	-
投資有価証券評価損益(△は益)	-	999
固定資産売却損益(△は益)	△6,492	△20,004
固定資産除却損	8,229	1,188
売上債権の増減額(△は増加)	△147,313	△288,848
たな卸資産の増減額(△は増加)	△472,177	△882,965
仕入債務の増減額(△は減少)	3,297,075	1,275,067
未払消費税等の増減額(△は減少)	92,988	△197,488
その他	283,207	△194,137
小計	5,549,721	2,335,774
利息及び配当金の受取額	11,621	10,387
利息の支払額	△97,699	△70,477
借入手数料の支払額	△31,461	△39,299
損害賠償金による収入	46,015	-
法人税等の支払額	△280,282	△631,060
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,197,915	1,605,323
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△868,806	△1,333,893
有形固定資産の売却による収入	599,162	36,090
有形固定資産の除却による支出	△14,612	△1,155
無形固定資産の取得による支出	△11,734	△70,659
敷金及び保証金の差入による支出	△125,893	△64,028
敷金及び保証金の回収による収入	221,585	126,448
定期預金の預入による支出	△222,721	△331,228
定期預金の払戻による収入	253,902	551,758
その他	△63,238	△15,537
投資活動によるキャッシュ・フロー	△232,357	△1,102,206

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年3月1日 至 2017年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△2,200,000	800,000
長期借入れによる収入	1,855,000	3,110,000
長期借入金の返済による支出	△2,235,267	△2,208,502
リース債務の返済による支出	△275,865	△286,403
社債の償還による支出	△45,800	△35,800
配当金の支払額	△189,543	△190,655
自己株式の取得による支出	△853	△345
非支配株主への配当金の支払額	△3,675	△6,125
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,096,004	1,182,168
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,869,553	1,685,285
現金及び現金同等物の期首残高	4,579,508	4,310,554
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,449,061	5,995,839

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社リックコーポレーションにおける通常の販売目的で保有する物流センターのたな卸資産について、従来、先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

これは、グループ内での商品統合・海外開発商品の拡大を推進することを目的として、株式会社リックコーポレーションの商品管理システムのグループ各社との統合及び主要子会社の商品部を廃止し、商品部機能をダイユー・リックホールディングスの商品本部に集約したことを契機に、事業セグメント別の事業実態及び期間損益の比較可能性を向上させ、より精緻な事業管理の実践と、より適切な経営成績の表示をするために行ったものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及修正は行っておりません。

(会計上の見積りの変更)

第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社リックコーポレーションにおける通常の販売目的で保有する店舗のたな卸資産について、従来、売価還元法による低価法を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

これは、グループ内での商品統合・海外開発商品の拡大を推進することを目的として、株式会社リックコーポレーションの商品管理システムのグループ各社との統合及び主要子会社の商品部を廃止し、商品部機能をダイユー・リックホールディングスの商品本部に集約したことを契機に、事業セグメント別の事業実態及び期間損益の比較可能性を向上させ、より精緻な事業管理の実践と、より適切な経営成績の表示をするために行ったものであります。

これにより、従来の方法と比べて、当第2四半期連結累計期間の売上総利益、営業総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益が104,246千円増加しております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2017年3月1日 至 2017年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計
	ダイユー エイト	リックコーポ レーション	アミーゴ	計		
売上高(注)2						
外部顧客への売上高	20,159,417	8,007,559	7,887,629	36,054,605	5,097,112	41,151,718
セグメント間の内部 売上高又は振替高	262,879	173,422	—	436,302	1,443,850	1,880,153
計	20,422,297	8,180,981	7,887,629	36,490,907	6,540,963	43,031,871
セグメント利益	723,854	310,924	186,056	1,220,835	402,290	1,623,125

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイユー・リックホールディングスにおける取引等のほか、ダイユー・リックホールディングス、ダイユーエイト、リックコーポレーション及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

(注)2 売上高には、営業収入を含めております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,220,835
「その他」の区分の利益	402,290
セグメント間取引消去	△217,834
のれんの償却額	△61,416
固定資産の調整額	27,882
その他	△3,900
四半期連結損益計算書の営業利益	1,367,857

II 当第2四半期連結累計期間(自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	ダイユー エイト	リックコーポ レーション	アミーゴ	計		
売上高(注) 2						
外部顧客への売上高	20,752,421	7,762,692	8,383,889	36,899,002	4,997,642	41,896,645
セグメント間の内部 売上高又は振替高	262,587	140,184	—	402,771	1,280,597	1,683,369
計	21,015,008	7,902,876	8,383,889	37,301,774	6,278,240	43,580,014
セグメント利益	723,538	267,639	281,024	1,272,202	161,481	1,433,683

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイユー・リックホールディングスにおける取引等のほか、ダイユー・リックホールディングス、ダイユーエイト、リックコーポレーション及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

(注) 2 売上高には、営業収入を含めております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,272,202
「その他」の区分の利益	161,481
セグメント間取引消去	21,209
のれんの償却額	△61,416
固定資産の調整額	26,393
その他	△3,900
四半期連結損益計算書の営業利益	1,415,970

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(1) 「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社リックコーポレーションにおける通常の販売目的で保有する物流センターのたな卸資産について、従来、先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

なお、この変更による影響額は軽微であります。

(2) 「会計上の見積りの変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社リックコーポレーションにおける通常の販売目的で保有する店舗のたな卸資産について、従来、売価還元法による低価法を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の「リックコーポレーション」のセグメント利益が104,246千円増加しております。

4. その他

継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。